

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	大嶋 満須美	職名	教授	学位	修士(健康福祉学) 山口県立大学
----	--------	----	----	----	------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
慢性期看護 看護管理	慢性期、受容過程、家族 組織、人材育成

研 究 課 題
慢性的疾患を抱えた患者・家族の疾病の受容と看護

担 当 授 業 科 目
成人・老年看護学概論 (前期) 成人・老年看護学演習 (前期) 緩和・終末期看護 (前期) 保健福祉学入門 (前期) 看護マネジメント論 (前期) 成人慢性期看護方法論 (後期) 成人慢性期看護学実習 (通年) 看護総合実習 (前期) 看護総合演習 (前期) 看護研究演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 成人・老年看護学概論 】 成人期の位置づけを明確化するとともに、生活者としての看護の対象を健康の側面から理解できるように統計資料を用いて教授した。社会環境が大きく変化する中で、学生の成長発達と関連づけ、発問をしながら進めた。毎回、学生の気づきや感想を記入してもらい、内容のフィードバックに努めた。
授業科目名【 緩和・終末期看護 】 学生にとって「死」は非日常であり、自ら考えることはあまりない。がんの罹患による健康障害や、終末期のありようについて健康観や死生観を深めていけるよう問いかけを行った。そして看護者として人々の尊厳とQOLの視点を持ち、かかわることの意義について教授した。
授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】 既習の知識や、基礎看護学実習、成人看護学概論を基盤に、系統別看護として健康障害とアセスメントの視点について強調し、形態機能や疾患の理解に結び付けながら解説、対象への看護について解説した。
授業科目名【 成人・老年看護学演習 】 臨地実習の前段階として看護実践の基盤となる看護過程の思考を深め、看護実践能力を育成するため模擬患者による演習と、看護技術が安全にできるように30コマを展開した。進行状況を確認しながら解説を行い、グループワークと個人ワークを組み合わせ、個別にも配慮し関わった。毎回、教員間で、進捗状況や方向性について情報共有を行い、課題や到達度について協議した。
授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】 既習の学習内容を資源とし、受け持ち事例を中心に、慢性疾患の病態理解と看護の方向性について、アセスメントの視点を重要視し看護過程の展開が出来るよう指導した。また、臨床指導者との連携を図り、慢

性疾患の自己管理や継続看護の重要性についても機会をとらえ伝えた。個別性のある看護実践について実習グループ間で学びの共有が出来る場の設定を行った。実習終了後は個別面接を行い、自己の学習課題の明確化を図った。また、そのことを教員間で確認をした。
授業科目名【 看護総合実習： 成人慢性期・終末期 】 社会に出る前の学生として 学生の主体性と看護の洞察が深まるよう臨地の指導者と調整を図りながら展開した。テーマと実習展開の具体的方法の決定に時間をかけ、実践計画の立案において自らが取り組む実習内容の確認を行った。また、看護職への将来展望を視野に入れ、複数の事例を体験し時間管理や多職種による連携、看護管理についても組み入れた。
授業科目名【 看護総合演習 】 看護総合実習前後の演習として位置づけられ、関心のあるテーマや自己の課題について主体的に取り組めるよう個別に関わった。学生が取り組もうとしている課題に向き合い、個別の時間を設け、学生の言葉にある背景やそれぞれの現象を概念化し、学生とプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。また、グループメンバーによる学びの機会を設け、類似性や新たな視点について学びを共有した。
授業科目名【 看護研究演習 】 既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。 本年度選択履修者はいなかった。
授業科目名【 保健福祉学入門 】 履修学生は学部3学科(看護・福祉・栄養)の1年生である。入門編として保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、社会の期待にこたえるための課題への認識を深めて行くものである。合同講義を通じ、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることができること、また自身の専門性における課題が明確になるよう毎回ミニレポートの提出を行った。レポート内容にコメントを加え学生の疑問にも具体的に答えていった。
授業科目名【 看護マネジメント論 】 看護総合実習において「看護管理」をテーマとする学生が選択科目として受講していることから、マネジメントの本質を確認しながら、学生の学習のニーズに対応した。「管理」は看護管理者が行うものという認識が強いため、組織やチーム、また経営的な側面についても再度確認し、「看護の質」と管理、看護実践者としてのサービス提供の在り方について助言した。また、保健医療福祉の動向と求められる看護師や看護政策について教授することにより、今後、自身の専門職としての在り方を意識化できるように問いかけた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本家族看護学会		1975年～ 現在 1997年～ 現在

2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
乳房切除術を受けた患者の就労に対する支援ニーズの検討	西南女学院大学	○高橋甲枝 大嶋満須美 笹月桃子 (後藤元子)	307,600 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
財団法人 佐波共済会	評議員	2017年5月～ 現在
山口県立大学	非常勤講師	2014年4月～ 現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018年4月～ 現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）

- ・看護学科 学科長 (2018 年 4 月～ 現在)
運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、学生総合支援室会議の構成員
学科会議
- ・看護キャリア支援センター長 (2018 年 4 月～ 現在)
認定看護管理者教育課程 講師
ファーストレベル講師 (2018 年 7 月 28 日)
セカンドレベル 講師 (2018 年 10 月 12 日・11 月 2 日)
認定教育課程検討委員長 (2018 年 4 月～現在)
認定教育課程運営委員長 (2018 年 4 月～現在)
- ・高大連携講座 (2018 年 11 月 1 日)
- ・高校訪問模擬授業 山口県立長府高等学校 (2018 年 9 月 20 日)
- ・国家試験対策講義 成人慢性期看護学領域 (2019 年 1 月 29 日)

※ 2016 年度様式から、学部長による評価・改善記入（助手については、学科長による評価・改善記入）は行われません。